

会場で直接いただいた質疑の概要

東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

【点検・評価についてのご質問】

質問 : 県の技術委員会でいまだ議論をしているのに、運転再開の申し入れをするというのは地元軽視ではないか。議論の結果を待ってからでもいいのではないか。

また、点検は目視点検と応答解析でわかると言ったが、今回の地震後、原子力安全基盤機構のクロスチェックでミスが判明している。たまたま数値的に安全というが、過信ではないのか。

維持基準が導入されて多少のひびでも進展しなければ使い続けることとなったが、まだ大丈夫と言いながら、配管にひび割れがあり交換しなければならないことが何度もあった。解析だけで大丈夫という根拠はどこにあるのか。

A : 国が安全規制について一元的に責任を持っている中で、原子力安全・保安院と原子力安全委員会でいただいた判断を重く受け止めています。これを踏まえた運転再開のお願いです。

県の技術委員会の議論は続いていますが、今後、地元自治体がそれを踏まえてどのように判断されるかという過程の話だと考えており、私どもはそれを尊重する立場であります。

点検について、応答解析だけで健全性を確認しているわけではなく、基本点検で漏えい試験や機能試験なども行っています。

配管の分岐管の計算の仕方で、前後のデータ処理でミスの指摘があったのは事実ですが、その後の解析では結果はほとんど変わらないので、解析に間違いがなく、その結果は報告もしています。

また、維持基準については、再循環系配管のひびについて維持基準を適用してきましたが、今回配管を切っています。これはひびが進展して切ったわけではなく、維持基準が正当であるということを示すために切って評価しました。数値もすべて公開し、地震の影響がないことをご説明しています。

Q : 維持基準で大丈夫といった配管に想定しないところにひび・穴が開いて、取り替えたという事実があるのではないか。

A : おそらく配管の減肉でそういったことがあったことについてだと思えます。そういうことがないように、ルールを定めて点検をしているところです。

【地質・地盤についてのご質問】

質問 : 先ほど説明があったが、佐渡海盆東縁断層の北部について、断層ではなくプログラミングでできたと言った。もしそうならば、どこから堆積物が供給されたのかわからないということについて、理解できない。無責任ではないか。

A : 佐渡海盆東縁断層の北部には西傾斜の崖があります。その崖が変動地形ではないかということで、その下に断層があるのではないかというのが専門家の先生の指摘です。海上音波探査から、地形

は崖ではありますが下の地層は曲がりません。もし断層が下で活動し崖が形成されたなら、その下の地層も曲がっているはずで、従って活断層ではないと言えます。

上の地形がどうやってできたのか、それがプログラデーションであるかどうかということについては、それほど議論になっているところではなく、多くの専門家が同意しています。プログラデーションの堆積物がどこから来たのかわからなければ、活断層かどうかを判断できないというわけではありません。もちろん供給源がわかればより理解は深まりますので今後検討しますが、活断層ではないという評価については自信を持っています。

質問 : 気比ノ宮断層と言うが、長岡市脇の町の“気比宮”(きいのみや)のことか。また、説明会をぜひ長岡でもやっていただきたい。

A : 断層の読み方について、設置許可時から“気比ノ宮”(きひのみや)と使ってきました。もし地名と違っていればもう少し検討したいと思います。また、説明会については小さな規模でも希望されればご連絡いただきたいと思います。

質問 : 資料の中で最新の知見や不確かさを適切に考慮した断層評価などと書いてある。専門家の先生も同じ図を見て、F - B断層と切れているという根拠がなく佐渡海盆東縁断層の存在を否定できないと話している。直接、専門家の話を聞くべきではないのか。都合のいい話だけを取り入れていると思ってしまう。

A : 当該の専門家の先生には県の小委員会で説明していただきました。また、論文を書かれている先生も小委員会に入っており、説明しています。つまり、直接話す場は設定しています。

【その他のご質問・ご意見】

質問 : 趣味で原子力工学を勉強している。地震直後、原子炉をしっかりと止めたが、ドップラー効果とボイド効果の数値を公開してほしい。万が一、暴走の可能性があったのかどうか。私は一日でも早く運転を再開してほしいと思っている。これだけの高い技術力だからこそ、これだけの被害で済んだということに胸を張ってほしい。応援しているのでがんばってください。

A : プラントデータは持ち合わせていませんが、数秒で制御棒が入り、中性子の量が一気に下がっています。従ってドップラー効果などを考慮する必要はないと考えています。また、データは国にも報告しています。

質問 : 以前の説明会で被ばくしたと言った人がいた。また、去年の秋に松葉の調査をしたが、数値が高くなっていた。明らかに申し出た人の場所の炭素が高くなっている。それくらいに出ている。モニタリングで監視していると言ったが、監視できない成分もある。ごまかして安心を得るようなことは言わないでほしい。

A : どういう放射性核種がどのくらい出て、どのような影響を与えるのかということは原子力安全委員会で試算しており、それに基づいて測定核種を決めています。ご指摘のとおり、発電所からも

炭素14は出ていますが、法令で定めるレベルの1千万分の1、自然界で宇宙線により生成されている量の百分の1程度であり、人体への影響という意味での被ばく線量としてはきわめて小さい値になりますので、発電所における測定対象核種にはなっておりません。

質問：2月24日の地震の震源地は中越沖地震の震源地とほぼ同じではないのか。

A：2月24日の地震の震源について、場所は近いですが、深さ的には10km（気象庁発表）であり、中越沖地震の17～20kmに比べてかなり浅いものです。

ご意見：説明を聞いて、思ったより丁寧だと思った。今後行ってほしい。早く地元に戻ってきて欲しい。戻るといのは地域と共生するということ。運転再開は地元復興の1つである。

7号機の運転再開はゴールではなく、安心のスタートという認識を持ってほしい。今後も本店から多くの人に来て、地元の声を聞いて安心につなげてほしい。早期運転再開を望む。

A：原子力発電は地域の信頼が最も重要であります。今回、取り組みを皆さまにきちんとご理解いただき、運転再開していくことが大事だと考えています。決してゴールだと思っておりませんし、これからの取り組みもきちんと行い情報公開してまいります。そういった中でご意見もいただきながら、発電所の運営を改善していくことが重要であり、本社も含め全体としてこの事業を守り育てていくことをお約束したいと存じます。

ご意見：8千人近くの人が作業していて、やっと起動試験まで来たことは評価したい。原子力安全委員会で安全宣言されたことは重みがあり、起動試験後に原子炉を止める必要はないと思う。最後に、原子力発電所に疑問を持っている人が全国で60万人いると新聞を見た。しかし全国的には人口の1,000分の5程度であり、その他の大勢はある程度評価しているのではないかと。60万の疑問に答えるためにも、安全に気をつけて運転することが望ましい。

以上